

小川為治著述

開化問答

下

71
4110
2



ラ1
4110
巻二



開化問答卷下

さき一服ひがくやらうのききたかふあれうまき法談義ほふたんぎを
 今乃活論いまのくわろんて々あつ當時政府たうじせいふふ
 法取立しうりたてをきく諸運上しよんじゆんじやうハ皆無理みなむりかまじいぢやんと
 是迄こゝまで通り百姓ひやくしやうの諸年しよねん真まをかりしきるるれハ法ほふ
 仁政じんせいてやいといひたまふれまじふ失禮しつれいをのぞかれ
 第一だいいちの心得こころえ達たつとりつめておき何故なにせといふや

開化問答 卷下



先刻から口が酸くある不^レ法話^ノ通り^ニ今^レ天子様^ノ乃^レ法
 政事を施^シ給^フ下^ニ皆^レ民百姓^ノ我^ノ乃^レ為^テお^ハる^ニま^シバ^レ年
 貢運上^ヲを法取^リま^シる^ニ夫^レ張^レ民百姓^ノ我^ノ乃^レ為^テお^ハる^ニ
 るその^レ甚^ク知^リ易^クま^シる^ニ今^レ上^ノ政府^ノい^ハ物^ノが
 く世^ノ中^ヲを取^リ締^メる^者が^レな^レば^レ世^ノ間^ハ暗^ク闇^クあ^リて^レ押
 込^メ盗^賊は^レ勿^レ論^ノ人^ノを^レ殺^シて^レも^レ咎^レる^事なく^ニ我^ノ物^ノ
 奪^ハは^レる^事も^レ訴^ヘる^事なく^ニ後^ヲお^ハる^事を^レ外^ニま^シる^事も^レ金
 銭^ヲを^レ貯^メる^事も^レ田^ノ地^ノ田^ノ畑^ノを^レ所^持する^事も^レ
 出来^レに^レ實^ニ不^レ弱^ニ人^ノの^レ詮^方なく^ニ饑^死する^事も^レ

不^レ落^入り^善し^試ふ^事も^レ彼^ノら^ノの^レ害^ヲを^レ防^グがんと
 思^フへ^レ夥^ク多^ク乃^レ金^ノ銭^ヲを^レ抛^キ盗^賊乃^レ番^ノ人^ノや^レ田^ノ地
 乃^レ番^ノ人^ノや^レ大^ニ勢^ヲ召^キ抱^キへ^レお^ハる^事始^メ終^ニ心^ノ配^シ氣^ヲ
 附^リ居^ル居^ル外^ニま^シる^事も^レお^ハる^事も^レ惠^ニひ^ムも^レ
 萬^ノ民^ノ枕^ヲを^レ安^ク家^ノ業^ヲを^レ營^ムる^事も^レ上^ノ天^ノ子^ノ様
 政府^ノ不^レ法^ノ役^ノ人^ノが^レ倚^リる^事も^レ法^ノ政^ノ事^ヲ
 施^シ給^フ下^ニ實^ニ不^レ些^ノ少^ノの^レ年^ノ貢^ノ運^上を^レ
 出^シか^ラふ^事も^レ大^ニ於^テ惠^ヲを^レ受^ル事^も思^フへ^レ世^ノ中^ノ不^レ法^ノ政
 事^も不^レ安^キ物^ノも^レ世^ノ中^ノの^レ仕^方も^レ

月記月記
 二

元来田地を耕作し一年千兩の
 收納を得る百姓が百兩乃年貢を出せ商人職人ハ同
 じも仕事をせしむるも千兩乃儲ある商人職人ハ同
 じく百兩乃年貢を出ししむるも等ておさるるれ
 百姓丁人も同様に
 政府乃恵をうけ同様に日本乃土地に居住する同様に
 日本人人乃権利を保ち皆同様に安穏に家業を営
 むゆゑておさるるも是れ百姓乃之年貢を出せし
 實に不公平なりと云ふは終に國乃產物に表徴す

成行するも政府より租税を
 收納する有様を法話せしむる先租税ハ二種あり別を
 之と法取上をせしむる事でおさるる一を私有税とす是
 一人乃家産を付し取上り運上り田地家作乃類
 乃運上をせしむる一を物品税とす是ハ絹糸蠶卵
 紙乃類を運上り產物乃運上をせしむる物品税ハ人
 間必用乃品物かゝらざる規則ありそのおわり玩
 物乃類奢侈乃屬する物かゝらざる運上を取上り
 ておさるる譬へハ五穀紙油乃類かゝらざる運上をせしむる

一、金銀乃細工菓子酒煙草乃類之居寄場か
 一、坐敷娼妓藝妓杯わりの重き運上をとりまとしておさる
 何故おさら乃物わりの重き運上を取るといふか
 此乃物ハ畢竟人乃情を慰る事乃用也
 へおさら乃物がなきとて人間乃生活おさるけ
 あるにけりよく、勤考し見ると無益ノ属
 此物ておさらなきいも今日乃場合よくおさら乃物
 を廢止しけり、ゆゑ只是等乃物より重き
 運上を取立國用を助るまとしておさら
 殊に貸付敷渡

世娼妓藝妓の属ハ遊民とて世間乃為ハ何乃益も
 なき、おさら乃物わりの重き運上を取るといふか
 を禁止し、當人乃自由を妨るけり、落入政府にお
 濟ぬまゆゑたゞ殊更重き運上を取立自然正法
 乃家業を營むゆゑ、おさら乃物わりの重き運上を
 治し通り日本中の人ガ政府乃為ハ年貢運上を納
 るハ詰り已乃仕事を天子様へ信頼し、おさら乃物
 入用を辨へる事、おさら乃物銘ノ家産乃大小、從ひ公
 平に割合出銀するハ當然乃理合ておさら乃物且天子様



○性理大全

月落江相
姑蘇



意亭
性理大全
生

ハ、その色を法取立にせしむるも、法自分様乃榮耀栄花
 不法用をなさるる日け、更なく法自分さまの宮内省
 と、法役所乃法賄ひ、一年終六十萬兩位乃法
 ふうして、おさる ナント勿躰なき、その法候約て、おさ
 りません、おその餘、悉く政府乃入用、お譬へ、大蔵
 省、おハ、農業を勧め、産物を殖中、通用金を製造
 世間乃融通をよ、年貢運上を取立、費用を足す
 等乃入用、おあり、文部省、おハ、世乃人乃學問を勧め
 知識を明、おさせ、人乃幸福を増させ、人と世話、おさる

入用、おさる、その他諸役所、おハ、おさる、その受持
 あり、その仕事を行ふ費用、お皆銘、おさる、納め、
 年貢運上、おハ、おさる、おさる、おさる、おさる、
 彼是法論、おハ、おさる、と、理窟、おハ、おさる、
 道理を、おさる、おさる、おさる、おさる、おさる、
 道理を、おさる、おさる、おさる、おさる、おさる、

⑤ 舊平

段々、その法、おさる、おさる、おさる、おさる、
 を、おさる、おさる、おさる、おさる、おさる、
 交易、おさる、おさる、おさる、おさる、おさる、
 僕乃考へ、おハ、天子様、お法直、お

法政事をなする中より小ありしを是追公方様乃由可
 愛がりやきつゝ西洋人等ハ直ニ法掃攘小せらるる
 と思へば樂んで居外し不矢張以前の公方様と同ト
 事なりあまけ不活一新以來ハ交易場乃數も殖え當
 時てハ丁度五ヶ所ておぎるナントお世トハ更不台点不
 行ぬおとしてハおきりませんかある方乃活不元来未
 の日本との國ハ神國ておきるわら日本人乃知悉と
 以ふものハ中々西洋人等乃およびもなほして物事
 何れ角も十分小備へ何一不足らぬい世界隨一乃國

どころでござるそめて慾乃深い西洋人等ハ已が悪國
 て物事不足だれけ物ごあせ世界中乃國々あ唯
 一ツ乃日本國を目掛く来々彼奴等乃國乃何乃益
 小も立やの品物を持渡り日本乃結構なる品を
 買出し追々日本乃諸品を置盡し線局ハ日本國
 を乗取ふと以不届千萬を企てまゝものておぎる
 乃二増倍三増倍小もあらる誰も彼もこゝろ難法
 居り外おきさる彼奴等乃仕業ておぎるお世不

餘乃品物を以て己の欲し品物と取替へ
 用を足すまゝにして其の取替へるは就して近所鄰
 家又ハ五十里百里さき乃人とも取替へねばあらずぬま
 ちよおまゝく間交易乃源天道様乃法思召ておぼる
 まゝ人間ハ父母兄弟とつゝものがあらずを身か親
 類とつゝものがあらず出来を身か段々繁殖して遂ハ一
 郷一國を成りたはけておぼる今も田舎ハ一村悉く
 親類多し且場所ハいくつもあるまゝにしておぼる
 さく世界乃出来まゝめとつゝハ天法中王神とつゝ

神様があらそきから高層靈神神産靈神とつゝ
 二人乃神様がまゝとつゝの神様乃徳不よつゝ此
 地球も出来人間とつゝも出来とつゝまゝとつゝ
 ハ源ハ溯る見事ハ西洋人だとも元我らとつゝ種
 親族でありハが世を經るハ後ハ名もまゝぬ國の人
 ぶあつゝもまゝなりまゝしてまゝとつゝゆゑ人間ハ親子兄
 弟親類ハ交際ハ近所鄰家乃人ハ交際ハ五十里
 百里さき乃人ハ交際ハ西洋人ハ交際ハ己ハ同
 大とつゝまゝ又全く天道様乃法思召てまゝとつゝ

是迄日本ハ日本をたけて何一不自由なく居る乃外
 國と交易がまじまつる諸色高直小なり下か難
 易せねば居らざる何故と云ふ人間ハ一日も文
 品物を以て自分なり思ふ品物と取替へるま
 と下ざるさき世にひらきまじりぬる交易ハ
 ちゆる物と物と取替へる譬ハ穀屋乃米ハ
 己の餘分米を以て紙や半四郎乃紙と取替へ
 織物屋乃杼助ハ己の餘分織物を以て金物屋乃

鉄蔵乃又物鍋釜と取替へるかくもめハ物と物
 との取替へる居た存が段々と不都合なりと
 の多きゆゑ又一乃知恵を生ず通用金といふ
 のを製造たるを以て通用金があれハ我餘
 分の品物を通用金と取替へおき何時も不
 一き品物を入用だけ求むるか出来ぬ以前と
 ハ百倍の便利を増しおきて通用金が出来ぬ
 出来ぬゆゑ夢羅交易杯といふ名目も出来ぬ
 夢羅交易杯といふ事乃大本をたぬふあつた

是れも矢張以前の物と物との取替へる事
 なるに非ざるに日々小入用なる品物を賣買す
 るに矢張此の交易も今でい交易も人々の西洋
 人と賣買する事乃れ松ふの思ふ大いなる誤て
 ざる又西洋人と交易をせねばならぬといふ試考
 するが如く今も小何か子細がある人々日用
 品乃れ賣買の出来ぬやうな事件もあつたらば各々乃
 難澁ハ勿論終ふ世の人種が盡るや成行せざる
 ナント此等乃れ理合を告知人々をせたらば交易ハ天道

様乃れ法趣意あり人間乃れ大利益とする物なり事
 ハよくありませうとせば日本同士交易するも西洋人
 と交易するのち只大きいと小なり乃れ相違のちあり理
 合ハ同一事ハ天道様乃れ法趣意ハ後ハ人間の幸
 福を増えたるため乃れ仕業てぶざるをせし頑固なる人ハ
 やせ日本ハ日本だけであらう不自由をい杯をさせ
 外ハ皆理をたぬ言葉でぶざる既ハ不自由不自由
 驗ハ天保年中乃れ饑饉を法考へたせ外ハの時ハ
 道傍小行倒る居る者が山乃れやう小あつたと外ハさる

小慶應年中乃不作小ハ外國米乃清菴を以て一
 人も餓死するものハおぼかりません ナントおせてもか
 一ツ不自由ないとまをさせませうかおせ皆天道様の
 法趣意を守ると守らぬとよするおとておぼかり外今
 小由考へて見れば天保年中乃餓饑ハ丁度一
 者が常時親類や近鄰と交際ずる居る病小罹
 りたる時誰一人看病するものもあらず終小死小陥た
 ると同様小く誠小悲しいおとてハおぼかり人且人間
 としよこのハ段々開きまき来る小後々物事乃全倚

ある乃を好む天性がある者どか唯一通り入用小物
 をかりてハ用が足りませんをせを一通り物をかりてす
 もとつ小ハ洋小開きなるハ國乃おとておぼかり今日入用を
 物をかりかそんせバ米味噌醬油薪炭油乃乾糶乃
 数品ておぼかりなるせハ衣類杯も木綿で小くしたる乃が
 一二枚家居も巾乃桶小茅乃屋根小く用乃足りると
 小よ小ハ自然饒福小く身ハ衣類も木綿小く紬つむぎ
 小く縮緬も段々美物を善用一家居も木作り小

土蔵土蔵より石作りと段々美室小居るを好む
 此れ天然の人間乃天性の癖に譬へば煙草の
 癖との昔々長乃頃外國からとめり種が
 たり九州邊より作り始めりその後火災乃
 恐があるといふ徳川三代の公方様乃頃小の度々作
 りしを禁止たれどもつひ不廢止るおと出未す
 今てハ日用乃一品より煙草煙草入喜世留乃數を
 賣買しつ後世する者數へ盡さき人おとをハおと之
 かそのふ女乃擗竹等との属ハ實ハ奢をきハめ

このて是皆世乃開希とあるておとをハ船来
 乃藥種砂糖鉄類羅紗西洋水綿時斗石鹼の類
 もき今日乃日用物も今日急不交易を法禁止不
 成せば田舎ハ志乃東京杯少ハ忽ち支るものガ
 沢山あるおとをささるる政府ハ外國交易を法
 開きおとをハ畢竟銘乃為不互不りき物を
 取替へ物事を全備し人間乃歡樂を増させん
 ため乃おとを五ヶ所乃交易場てハおと不足不位
 ておとを徳川家てとめり外國と交易を

法開き小なりとも頃ハ諸色が急不高直あり世乃
 人がいらく難澁を唱へまゝたが其の頃小ありてハ
 物事不段々折合がつき諸色も追々下流一誰一人
 難澁を以て者ハ其ハやうあり外之も其諸品乃愛
 方かよき所から元方乃人々皆精を出し追々品
 物乃仕出しハ沢山小なりと来とゆえまゝ其の末も
 銘々精を出し色々乃品物を製造へ外國と交易
 其身ハ一人乃富むかりてハ其日本國中乃富小
 り遂々日本ハ世界一番乃富國小なりとみくよまぐ

考へ身ハありあつてまゝとておまゝ

六 舊平

足下乃法理解まゝ外國と交易乃理合もそのり僕
 乃是迄乃疑ひハ大抵とけ外とまきまぐと拊黙と
 引込とけ小ハゆきまじんそ身ハ其の節政府も其所
 へ學校を法取建ちまき下へ學問をすまや法世
 話もまき學問をすま事ハよま事たまハ聞ま居り外
 々が當時はよま法勸まきま學問ハま横文字
 みる一寸見ま蚯蚓が乃とくま居るやま文字

ちかり是迄乃學問ハ皆法廢一ハ四書五經採い
ふものハ手不とするものもやまきしものおとさうしき見るし
日本乃是迄乃書ハ藉とい物ハ益小立ぬ物ておぎら
かす少も益少立ぬ物も今迄今ハ珍重する者も
や一儒者や學者を尊敬するにけりおぎりけり
さきハおせらハ政府て西洋おき乃ともろあつちんても
彼奴等乃物もふかふらんよきまと思ひ大ハ妖惑
さきくみもとあうてハおぎらんか

開次序

成程此等乃疑ハ一應ハ法尤乃やろ開ゆせど是ハ
ハ深き理合乃あるおとておぎら先文字よりよものハ人
の意を達し世乃中乃理合を知つため乃道具よりい
そい言ふ乃ありをさる物ておぎらそせを漢土乃文
字とい物ハその数三萬六千ハあるおとちりきハおの文
字を用るる用を足さんと思ふ者ハ文字を知つ者ハ
二年三年乃日数を費やさねハおとぬおしそおぎら又
日本乃いろハ四十七文字西洋乃横文字ハ二十六
文字さきハ日本や西洋の字を知つハ一月もあつちんバ

出来りるけりゆくまの得失を考へきハむづかき文字
乃為小余斗る光陰を費やれハ真ハ無益なまこと
おさるものと文字とり物ハ前ハも後話ヲ通り世の中
乃理を知る為乃道具をせハ恰も大工や左官乃鑿
鉋泥鑊杯と同様の物ておさる今大工や左官が道具
をかり沢山所持し居るとして家を作るまこと壁
を塗るまことをさるや身ハ用ぬ立外まひ學問と
くも同トまといか程むづかき文字を沢山知くこと
理合をさるねハ用ぬ立ませんそ身ハ道具をかりの穿

鑿小二年三年費やすハ馬床乃上や痴獣の親玉
ともやませりませ漢文字乃不便なまらておさる又
學問ハ唯むづかき文字を知り解しむる古
文をよみ和歌を詠し詩を作るまこと世上ハ實乃なき
文學をのみまことハむづかきませぬまは乃文學も随
分人乃為小なるまことハあせども古來世間乃儒者和
學者ふとのハ程さすて何ハめ尊むべきものてハま
さむぬ昔ハよ漢學者ハ世帯持乃上手なるも
のハ収く和歌をよくハ高貴ハ巧者なる町人

も稀こまておびざるそせゆ心こころある百姓ひやくしやう丁人ていじんハその子こ乃なり學問がくもん
 不出いっせ精せいするを見みるやがく身代みしろを持崩もちぶすも人ひとと親おや
 心こころ心配しんぱいするものもありそ無理むりなるぬりけておびざる
 ちせその學問がくもんの實じつ不遠ふとんく日用にちようの間ま合あぬ證據しやうこて
 おびざる今いまかくる實じつ多おほき學問がくもんハさきとあき專ととら勉つとむべ
 きハ人間あへり普通ふつう日用にちよう乃なり學問がくもんておびざる譬たとへハいろは四
 十七文字しちじふしちを習まなひ手紙てがみ乃なり文言帳もんごうちやう合あ乃なり仕方しはう算盤さんばん乃
 稽古けいこ天秤てんべん乃なり取扱とりあつかひ等を心得こころえる不ふ又また多おほく人ひとで學まなむべき
 簡條かんじょうハちたうも多おほくまざる地理學ちりがくハ日本國にっぽん中ちゆうハ

勿論もちろん世界せかい萬國ばんこく乃なり風玉道ふうぎみち業わざ内究ないきゆう理學りがくハ天地てんち萬物ばんぶつ乃
 性質せいしやうを見み分わかりその傷やうを志しす學問がくもん歴史れきしハ年代記ねんだいき乃
 人ひとハ物もの乃なり美國べいこく古今ここん乃なり有ありて詮索せんさくする書物しょぶつ經濟學けいぎがくハ
 一身いつしん一家いつか乃なり世帯せたい乃なり一國いつこく天下てんか乃なり世帯せたいの持もちやうを説とくもの
 修身學しゆしんがくハ身み乃なり行なひを脩しゆめ人ひとハ交まりまの世よを涉わたる身み天てん
 然しか乃なり道理だうりを述のたるものなり是これ乃なり學問がくもんハ人ひと乃なり貴賤きけんハかゝる
 一般いぱんの知ちを叶かぬまゝたよりハすて不學問ふがくもん乃なりす知ちよりハ不ふ籍せき
 不記載ふかざいハ何故なげまき号ごう乃なり事ことを志しすでかゝるぬりハ不ふ譬たと
 へバ寒氣かんき乃なり強つよき時ときハ寒さむきを防ぼうぐハ為障子ためしょうじを閉と

密ちかく火ひを盛まりあまり大勢群たいせいちぐんツツ居ゐる皆みなかからら逆さかり上あり鼻血はなぢを出ですややううなるなるおおととおおががぎぎるるままをを空くう氣きか流ながるる通とせせん炭素たんそととりり物ものが外ほかへ出でぬぬゆゆええとと究理きうり學がくを志しすす人ひとハ志しききふふおおのの理りを悟さとるるままととおおぎぎるる又人またひととといいふふののハ前日ぜんじつ乃な儲たくわを貯たくわへへ今日けふ乃な生活くわつがをすするる苦くる乃なものものおおままハ無益むえきななままとと一いち錢せんも用もちるる今日けふ乃な儲たくわを溜たくわへへおおのの後日ごじつ乃な患うれ不ふ備びへへおおままととおおぎぎるるおおのの理り合あを志しすすハ經濟學けいぎがくを志しすす人ひとハ他人たにん乃な異見いけんを受うけけるる及およびび自じ然ぜん自じ分ぶんかからら質素しつそ儉約けんやくをを志しすす

ておおぎぎるるナントおおままららハ皆學問がくもん乃な力ちからてておおままりりまませんせんかかままののおおのの百姓ひやくしやうを志しすすハ耕作かうさく乃な為ため是迄こゝ乃な社方しゃがたををかくかく改正かうせいしし一方いっぽうが取上とくじやう高たかも殖え手はふえて数かずももかかららぬぬ此等こゝろの事ことを考かんがへへるるハ植物學ぶつがく地質學ちしつがく化學かがく採入用さいにゅうようなり職人しやくじんも志しすす此車こゝろぐるまハ在来ざいらいの造りつくり方かたよりより改か正せいした方かたが手輕てがるくく便利べんりなり人ひとととかかららるる事ことを考かんがへへるるハ器械學きかくがく入用にゅうようなり商人あきんども志しすすハおおのの品物しんぶつハ何國なんこく乃な出来できるる造つくりり元手もとてハ何程位なんぢやうゐかり世間よかんへ一十年いちじゅうねん乃な賣うりり高たかハ何程位なんぢやうゐと此等こゝろの志しすす考かんがへへるるハ地理學ちりがく物產學ぶつさんがく採入用さいにゅうようなり

才金くませ等の學問ハ今迄日本人乃氣が附ぬま
 り皆西洋人乃考へ出し之事を以て此等の學問を
 するふ何れも西洋乃翻譯書を取調べ天抵乃事ハ日
 本乃假名も用を便し或ハ年少も文才あると
 のハ横文字をも讀ませ一科一學も實事を押へその
 事ハ就きその物ハ後ハ近く物事乃道理を知り今
 日乃用を達しさせらるやうするが肝要であらる若ハ人間
 普通乃實學や一人一人のハ皆悉くたふむべき
 心得ておさるまの心得あつて後ハ四民も人乃厄奴ハ

ちうに家業を營み次第ハ繁昌を一つハ獨立不羈の
 人間とせらるるを以ておさるま漢土乃學問ハ隨分よき
 ありありあり人乃為小なる金もあつて究竟
 理合ハち程乃ちよあつて文字のちむづかしく
 骨折と利益とを較せ到底利益ハすくなきまよて
 ちする今ても強ち法上よと漢學を法度しあつた
 り事ハちぎりません只西洋の學問をいの方ハ日用の
 益あり身乃為あつてちゆる急專そ身ハ法道すま
 するまけま古來よと學問の道ハ博を厭はし

弁あり力があつて根柢乃よき人ハその人乃了簡次
 第和漢洋ともひろく學ぶがよし一い事ておきき唯
 普通乃人乃學問ハ理合を知るを專一しし假名振
 あり用を足す方が便利ゆ急法上てもあつた法趣意を
 以て所へ學校を取設讀め易き文字もく人間日
 用乃為あつる學問を教へ人才を法育をささるあつて
 おさるそつとを西洋人ハ迷惑さすて居る振といはる
 ハ畢竟學問乃理合を知んるさすぬ足下乃頑愚なり
 是のておきき

七 舊平

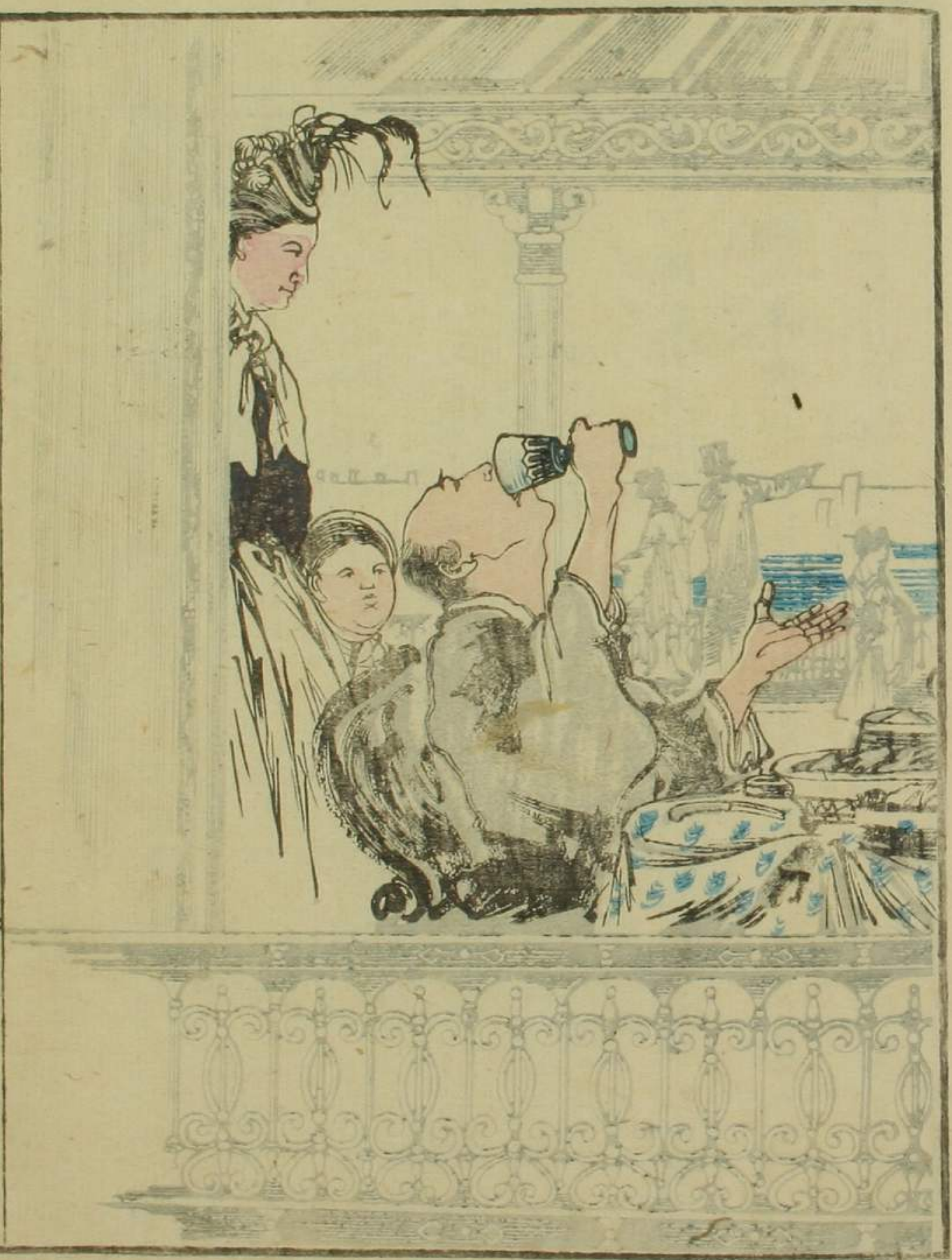
妙々足下乃法溝釋々々西洋乃學問を學ぶけハま
 つわりとさかりましくさかすそ身不就くハもく一議論
 せねハさくぬまどおさるそせハ去の頃世間乃風俗を見
 るふこも是迄乃家作を西洋人ハ作り頭ハ散髪
 あり身軀ハ窄袖細袴を纏ひ食物ハ牛乃油煎が
 よい乃豕乃煮附志下乃とりし居り外ハ是
 てハまろく西洋人ハ随從志すつち中ハ真
 不歎かハ一いさすてハおきき人ハ是迄四足を食ふ

ハ神様乃罰があたり穢けがらハい物だと日本乃人ハ誰たれも
 食くふ者ハあざむぬたああく菓食くわしきハ猪ぶたをど食くへ三日
 の間ハ神様へ手を合あせし事も出来ぬ程乃ああららく
 とささであり神國乃貴たかいとああろがああららくいいもののでふ
 ぎぎろろを此島このしまでハややき牛鍋ぎゅうなべどどハ豚鍋ぶたなべをハ牛の
 乳ちぎがよよろちちんんどどろろかかどどろろといいひちちららくその口くちを漱すすも
 せせハ神棚かみだらへ向むかひひく拜禮らいらいををししげげるるハ程拜禮らいらいをを
 してしてて身み入いて神様ハ承知おぼやかしなきなきせせしし四討しよと乃乃當あららぬ
 らぬハその人乃幸さいまひてああききるる又家作りも是こゝ日本ハ日

本だけ小いこくくも調法てうはふも作り方かたもあり立派たてはな作り
 方かたもああららくそそををやや煉ね化くわ石いしどどの石作りいしたのたのくく
 無益むえきハ高い金銭かねせんを費つひ甲か何なに乃利益りえきががありませせく唯ただ
 其家そのいへハ住居すまひハハ野の頭あたまてても生なまハハややららくハ西洋人せいやうじんを真似まね
 了し上うへををああ功こう能のうハハああららくく又衣服いふくももああららくく冬ふゆハ
 綿わた入いれ夏なつハ單物たんぶつと日本人にほんじんハ日奉服にっほうふくて沢山たくさん用もちハ足あし居を
 り外そとををせせ乃生物なまもの識し乃半生なままき熟じゆくな奴等やつらハ今急いまいそ
 小氣こけ乃附つハ中ちゆう窄袖せうそく細袴さいかを着き用もちハ蝙蝠傘かぶとをを手
 小持こもち驕慢きょうまんを面付おもてををハ偶恒くわん體ていハ衣服いふくを著きるる

人の達へハ開きぬとハ野蠻たとかひひ夫の人等の仲
 間かゝ人間てゐいやう不中々居り外殊ハ異風ふの
 ハ散髪てぶぎるもとい人乃女房でも盗こテ海か多いし
 以時ハ頭を剃あや一坊まゐるく詫とこのめてぶぎる
 させば當時乃人ハい多悪事をまゝ履き下心を以て轉
 ぬ先乃前杖ハかく散髪不中々とまもや何不まろ合
 点のゆめぬ了簡てぶぎるその僻まゝ高慢まゝ散髪
 不中々ばもう直不物識りのやうをなす一やせ文明だとか
 開化たとか開きたとかい申希ぬとかい一白痴が新田

開化をまゝやうかたをいつく居り外させハ是等ハ
 皆余斗ある仕事みくやう了簡もまゝ無益ハ西洋
 人乃真似をまゝる人等か多くやせハ自然人情が浮薄
 不中々徳賣ま心ハ失く終ハ真寔西洋人ハ随従ふや
 うやう行ませうさせハ矢張是迄通り髪を結ひ袖乃
 ある衣服を着用せし西洋風乃家作を禁ト四足
 ハ食ぬやう法布令のあつと方がよかと思ひ外
 開化序
 成程足下乃理窟ハ一應ハ法尤乃やうハ開化せとま



竹見



正真乃理合（まことなることば）の更（さら）の知人（しりあひ）もさるぬちとて（さか）さる先食物（まづあはれもの）と
 尸者（しもの）ハ畢竟（ひつまじやう）身躰（みだ）乃滋養（やしやう）の食（く）ふにけりあつあんでも
 身躰（みだ）乃為（な）ふちる物（もの）を食（く）ひるにせハちかぬちとて（さか）さる
 之（これ）を日本（にっぽん）の食物（あはれもの）と者（もの）ハ只口（ただくち）のみまきを専（せん）一（いつ）と
 養生（やしやう）杯（はい）乃（は）あとい聊（いさか）もかまひませぬまじは日本（にっぽん）人（ひと）ハ根氣（ねき）
 弱（よわ）く西洋人（せいやうじん）乃（は）やうの蒸氣（じやうき）船（ふね）や傳信機（でんしんき）杯（はい）乃大發明（だいめいめい）を
 する事（こと）ハ出来（でき）ませんさく第一（だいいち）身躰（みだ）乃滋養（やしやう）ふちる
 至（いた）き食物（あはれもの）ハ牛肉（ぎゅうにく）牛乳（ぎゅうにゅう）猪肉（ぶつにく）鳥肉（とりにく）の類（るい）とくあせハ西洋
 人（ひと）ハ化學（かぎやく）とちる物（もの）乃原質（げんしつ）を取調（とるまわ）へる學問（がくもん）とく悉（しつ）

く調（しら）へ聊疑（いさか）のあひあつてあさう又昔（むかし）ハ獸（けもの）乃肉（にく）を食（く）ハ
 ぬちのハよく古（ふる）へをさるぬ人（ひと）乃言葉（ことば）でささる既（いま）ハ古（ふる）
 語拾遺（ごしゆい）とちる書籍（しよき）ハ大國主神（おほくにのかみ）乃營田（えいでん）乃日（ひ）の字（あひら）を以（もつ）
 ち田（で）を作（つく）る人（ひと）ハ食（く）ハめ給（たま）へるまじかあさる又人（ひと）乃世（よ）と
 ありくハ仁徳（にとく）天皇様（てんかうさま）ハ鬼麻野（おにまの）乃麻（あ）の声（こゑ）を聞（き）くその
 肉（にく）を召上（めいじやう）る忍（しの）びたましん孝徳（かうとく）天皇様（てんかうさま）ハ牛（うし）の乳（ち）を飲（の）
 ちたまひくちせを献（けん）せしものハ和薬使主（わやくしす）しらす氏姓（しやうせい）
 をたまひり杯（はい）ハ獸（けもの）肉（にく）や牛乳（ぎゅうにゅう）を用（もち）る給（たま）ひ澄（すみ）
 撥（は）ち皆（みな）悉（しつ）く書物（しよぶつ）ハ書載（しよざい）くさる時（とき）ハ今（いま）ても信（しん）

州諏訪乃祭小八百疋の麻の頭を飾るまゝがまざるま
 れ神代の遺風ありつゝ一へとて獸肉を忌まぬまゝ
 でござるまゝは穢まどい事ハ佛法ハ傳ふ以來坊
 等乃つゝ出せしまゝ取不足らぬまゝ又當
 節家作をまざる不強西洋乃風を真似るといふは
 おまゝ人乃まゝ今迄乃家他ハ第一火事乃患があ
 る一第二ニ養生乃法不適ぬゆゑ身軀乃為を思ふ
 人ハ追々西洋風小まゝ又考へて法覽な
 きまゝ是追乃土蔵を作ると西洋風乃尊信をまざる

つぎハ安直不出來外かませばあるも無益小金錢を
 費やるといふ理ハおまゝ外すいそまゝ小一ツトおま
 がおまゝもと流行病といふものハ水溜りや腐敗物の
 大腸小腸をさせるの蒸發氣を人が嗅込るとはから
 發るおまゝ又空氣といふ物ハ大切なるものゝ
 空氣がなるとは人間ハ生活する居るおまゝが出來ません
 ろまゝの家他ハつゝ空氣乃流通するゆゑ水溜
 りや腐敗物乃清潔不掃除の出來るゆゑおまゝ
 肝要ておまゝを是追乃家他乃仕方とハト下

ちやうちやちやちや床ハ低ク風ハ入リ様の下ニハ水
 が湛ヘテ居ル腐廢物ハ家ノ周圍ニ棄テありナント
 是マハ年中藥ト病人乃絶エぬハあるナリあるナリ
 ハおぎんか窄袖や細袴を著用するもやかまう
 くつぎんかおぎんかおぎんかおぎんか先日本乃大古
 一乃風俗ハ之窄袖も頭も惣髮の擡下けた大
 ざるおぎんか古き画杯も見えく書物も澁撥が澤
 山おぎんかおぎんか中古上質漢土の風が移り袖も長く
 一髮も結小おぎんかおぎんかおぎんか半髮髻長頭とらふ

ものハ乱世乃陋キ風もやちやちや三四百年以素乃
 ちやちやおぎんかおぎんか人よりものハ便利を專一おぎんか
 ちやちやぬものおぎんか壁へハ物を運ぶおぎんか車乃方
 が便利よきゆゑ自然車を用ふるやちやちや成行おぎんか
 萬事ニおぎんか同ト事テおぎんかちやちやゆゑ長い袖のおぎんか
 ちやちや一ト邪テおぎんかちやちや誰も便利よき窄袖を
 著用するおぎんかちやちやちやちや不便でも長い袖の衣服を
 著るおぎんかちやちやちやちや世乃中の仕事皆便利を舍て
 不便利なるおぎんかちやちやちやちやちやちやちやちやちやちや

姓ハ便利ニ鋸鋏を舍テ手を以テ田を佃リ職人ハ
 便利ニ鉋鋸を舍テ手を以テ家を作るナント云
 夫馬麻を以テ誰モ承知するものハ出ダリ外ナシ
 云々云々散髪乃話小移りませう先散髪ハ云々
 云々云々第一養生トハ人間
 乃頭腦ハ精神乃住居云々云々大切云々云々
 云々云々天道様か造へる小ぶく大丈夫云々骨を組合
 せ其上小皮を覆ハ又髪乃毛を覆ハ又其上小帽子
 と冠ハ是大切云々事を人小云々云々自然乃妙理ト

云々云々そきを及代を剃云々日云々霜小
 云々一寸考へるも天道様乃意小悖リ不養
 生乃云々云々第二便利ト一寸他へゆく小
 云々髪結乃手を待テ我手云々撫付用が云々外
 第三儉約ト油之結乃冗費を省キ殊小夏向ハ髪
 付油の蒸發臭キ白ハなく誠小愈快云々云々
 云々ト是等云々散髪乃利益ハ云々云々
 云々段々活リ通り肉軟ハ養生乃為小食ら
 云々殊小昔一ト天子様をドめ忍上らせ云々云々

西洋風の家作窄袖散髪ともなれ便利養生
 乃為ておきる且窄袖散髪ハ日本乃古風也強西
 洋を真似るといふも亦外すひききば足下乃法
 論ハ之亦本を正さぬ誤り一ツも理不合ぬと云
 僕一ツおかし世乃半生熟先生ハお世々の
 只肯替不開化めか人あり真の物識乃眼不
 ハ片腹痛おとの多りておきまされど自然と此等
 の規則不かなへハま當人の為ハいか程ハ利益ある
 ともく他乃偏屈不疑結く居る人より幾等乃徳を

得るおきません唯ねかハ此等の人半生熟ある
 浮薄心をやめ眞實ニその利益を受るやういたる
 べき

八 舊平

足下乃法話ハまき法至極よく吞込ました僕も
 今迄ハそんな道理ハ分らざ唯昔一堅氣乃偏屈か
 ら此頃乃おとハちんでも皆異れあてさきやうと思
 る居たが今乃法理解で始り夢がさめたりたさうか
 のうまご一ツどうも僕の胸不落ちる事がおきる

ぢんだとらふ不蒸象車や傳信機の事てぶさる世間
 乃噂をきく不鉄道を造る不人を生理不志ふるれば
 出来ぬ傳信機ハ女乃生血を銅録へぬるゆゑ遠方へ
 音信か通づる是皆切支丹乃仕法あり西洋人が此等
 の事を日本人に見せ膽をつめさせその虚不乗一日本
 を奪ふといふ不届至極なる計畧なり觸一外まで不
 去年の春西國過る百姓一揆ハ此等の事か起ると
 外僕もそん馬床をふといふわろく思へども銅
 録あり百里も二百里も先へ便りが出来二十里三十里

乃道を逸一時か半時ハ往復を多と見せハ誠不ふ
 ぎあり成程切支丹乃仕法かと思ひ外殊不ある物識
 の活話ハ鉄道だの傳信機ハ西洋人乃國の中やける野
 山ハ幾萬里も果なき大國ハ重不憂るせど日本乃
 如き小國ハ無用な物とそつげハ日本のぐるりの盡
 海ゆゑ急な用事ハ蒸氣船より足りその回ハ日本
 船より澤山まる文通ハ飛脚や托のハ果か果まで
 二十日の三十日より届くさけはせまやそせあり沢山用
 便ふなり居る一とある今急不長崎横濱ハ相館の

舊に君矢禮多かき足下の法活ハ皆深き理合を知ら
 るまきぬむとしておきさる先蒸氣車といふものハ蒸氣乃
 カて走る車みき一合乃水を沸騰せ全く水がもくな
 きバ一石七斗の蒸氣をもち即ち千七百倍乃容ておきさる
 かく非常ハ膨脹たる蒸氣を捕へシリトルといふ鉄管
 乃筒乃中へ入せその幾力を蓄りて車を運轉させ
 了仕掛ておきさるもの器械を仕掛て車を機関車と
 名付たり乃機関車もく他の車二十輛乃至四十輛と
 引おしておきさるまき車乃製造ハ皆大丈夫もく鉄乃

輪四の宛をわけし造り方ゆゑ尋常の道を走るものと
 か出来ませんそせゆゑ別ハ道を平なり車輪乃當り
 とおろふ中二寸厚サ四寸許の鉄を二條填め常ハ大
 の上を修来するまきおきまきおきおきおき
 又傳信機といハエレキトルの氣力より音信を通
 ずる仕掛ておきさるものエレキトルといふものハ天地間乃
 萬物ハ傳つる一ツ乃氣もくまきおきおきおき
 ハ此力乃あるまきおきおきおき傳信機乃仕掛
 ハエレキトルマグ子ツトといハ鍛鉄乃棒とガルバニツ

クハツテリーと云銅と白鉛を入けたる箱とを以て
 エレキトルの氣力をおこし、その力を彼是乃間ふをり
 たりたる銅線のもつて通すは道乃遠近小あり
 つつ直先方通するもつて此方あり銅線乃
 ちつをイの字乃所へ當せば先方あり同トくイの字
 をつき口の字へ當せば口の字をのり變ふその働自由
 自在あり恰も對面して話をきくやうておこるまじく此
 等の事ハ前小は話ト窮理學ト以學問を學ぶハ
 忽ちのちおこるまじくナントかる道理を知らるまじく
 鉄

道や傳信機ハ切支丹でもなく、うぎても、おこるまじく
 ひ又鉄道ハ日本のやうなめぐり海より船乃便利がよ
 き國柄でハ無益だの音信ハ是追乃飛脚より十分
 足りる傳信機ハ余斗ど杯事ハミな偏屈な理を志
 らぬ人の言葉で、おこるまじく第一西洋でも英國杯より國
 ハ日本より少し小き位なる矢張島國ておこるまじく
 小國中惣軒鉄道乃長サを積む強人と四千五百及
 び傳信機ハ何所も蜘蛛の網を張るやう引架くと
 あるものとはさき、船乃便利よき國柄も、鉄道

傳信機ハ必用之物ト思ハルハ譬ハ東京と横濱の
 間を川越系より往來せしハ稍く一日ハ西度位乃大
 としておぼろそだが鐵道が出来ると一日ハ十度ハ
 往復が出来外ナント便利トハおぼろそ人ハ又音信も是
 迄ハ稍く一日一度のころが傳信機ありハ烟草一服
 吸ぬうち返事がくる實ハ便利ト云ふも舌を巻か
 りて、おぼろそ升そせ西度商賣乃繁昌ハ及ぶ火事
 病氣も忽何ハあふおぼろそ是皆鐵道傳信機の功
 益ト云ふも又山國では是迄運送の不便ありて出来

金、産物も捨置と骨を折らぬ場所が少なるそせ
 が鐵道傳信機が出来運送が自由ハなせば我勝不
 骨を折る産物を積出す工夫をせず由之自然産物
 も殖え民百姓も饒富ありて理少く且馬の脊を以
 て運送するより鐵道の方が安賃錢を省ハ
 おのつかり産物乃直段も下落をみるおぼろそ
 此等も考へたる鐵道傳信機ハ國を富一民を饒
 富ハするハ必用之物トハおぼろそ人ハかきと
 機が出来せば商人の儲かるくなり商賣が衰微せ

子とハ沙汰乃かきり謀ふあき、謀ふ口が閉ふげさせん
 何故とらハ物乃相場と子物ハ時乃景氣ふより
 高下まゝ物みく中人力を以て自由ふまゝにけふハ
 いかぬまゝとておぎる壁ハ豊年ハ誰も米の直段ハ
 追々下落まゝなると考へるよ米所持乃人ハ我
 勝不賣らん事を競ふ是不於米相場ハ益々下落
 いか外凶年ハハおまおなり追々米が拂底不ぢえ
 と思ふゆゑ人々蔵へ積込おま高直を待て賣出
 さんといふそせゆゑ益々おまおぢえささば何せ乃土地不

品物が澤山おる賣人が多きま直段乃下落ハ
 必定乃おとしておぎる尤鉄道傳信機が出来まは是迄
 とかり日々諸方の相場がま進るゆゑ買人乃集り
 方も自然おやくそせゆゑ相場高低乃間乃日数も
 是迄乃やう永くハおさなり外まひま進ども商人が平
 常心ハ油断多し諸方ハ糸を配りよく勉強さへま
 まバ萬事便利のよき、昔よ米儲ハま不多く
 あるべき苦ておぢる且高賣とりよとのハ千兩乃高ハ
 を一度一々百兩乃利を得るよ米千兩乃高ハ十度

一と百兩乃利を得る方が品物乃賣方もよく金銀
 の融通もよき理不^り如何程當人の為不^ななるか志^し
 ませんそをさきまの商人一年一度か二度の高
 賣をせし一際不^な濡手て粟を儲むやうなる儲をせし
 めやうといふ懶惰者の多かり事だが大に
 そんを手ぬるきおとでい間不^な合ぬおえおのづと高賣
 不^な勵む心おちり一年不^な百度も二百度も高賣をする
 ち^や不^なわりませうさきま品物乃賣方もよく又金銀
 の融通もよくなる理合あり獨り商人の幸ひでい

ち^や天下一般の幸福といふはきりませんかちせその源を
 考へせし鐵道傳信機の法^は法^はておさる

舊平

段々の法理解誠不^な感心^しき^また實不^な足下乃法活
 乃通り當時政府の法政事とりおもの皆民百姓我
 の安穩不^な暮^らき金錢が沢山儲^つく沢山歡樂^し乃出
 来るやうおもの法趣意^はた^しつ^まお^し了^す然^しと^しか^し恰
 も夢の覺^めとやうお思^ひせ^し今^は追^はお^しる道理^はあ
 る事^はハ露^らえ^し只^し當時の事^は皆^は異風^{なり}恐^ろ

きまらざるのこ思ひ政府の法政道を彼是（彼）もよく中上足（中上）も下（下）も對（對）しるも僻論を唱へ（唱）まじくまじく今更（今更）をえんと（をえんと）も恐入面目なき次第ておぎさる（恐入面目なき次第ておぎさる）

開次身

僕の愚論が法胸（法胸）の落（落）ましたかを身で去を僕も法話（僕も法話）中左甲斐があつてよろおをう（中左甲斐があつてよろおをう）おぎさる今（今）の世の中（の世の中）の風俗（風俗）もいふもの唯多る（唯多る）譯（譯）もさかゞん（さかゞん）音聲（音聲）小昔（小昔）一乃事（一乃事）を悪くいふ當時乃流行を真似る人杯が多（を悪くいふ當時乃流行を真似る人杯が多）い乃不足（い乃不足）下（下）の心底天子様乃為を思ふ（下の心底天子様乃為を思ふ）もろろか多新規乃物事（もろろか多新規乃物事）

をさるいものと思ひ彼是法論もいひ聞（をさるいものと思ひ彼是法論もいひ聞）らせり事（らせり事）ておぎさる身が僕の話が法胸の落入り（ておぎさる身が僕の話が法胸の落入り）サラリ（サラリ）と以前（と以前）の法論を棄て去りいふさつと所（の法論を棄て去りいふさつと所）は真小日本（は真小日本）人乃象（人乃象）みく（みく）貴い法心感心（貴い法心感心）もまじく段々法話（もまじく段々法話）の様な（の様な）まけどかろ銘々皆政府乃法趣意を守り勉強（まけどかろ銘々皆政府乃法趣意を守り勉強）さへ（さへ）まじく程面白樂（まじく程面白樂）もいふ出来い程貴き身（まじく程面白樂もいふ出来い程貴き身）分（分）ふ（ふ）ちり（ちり）せり（せり）たし（たし）あり（あり）ナン（ナン）一（一）奮平君（奮平君）よく考へ（よく考へ）る（る）は（は）涙乃流（涙乃流）せり（せり）る（る）ほど有難法時尊てハおぎさる人か（涙乃流せりるほど有難法時尊てハおぎさる人か）

開化問答卷下終



明治七年三月新刻

日本橋通三丁目

丸屋善七

須田町

富城屋藤兵衛

同

和泉屋勘右衛門

東京書肆

